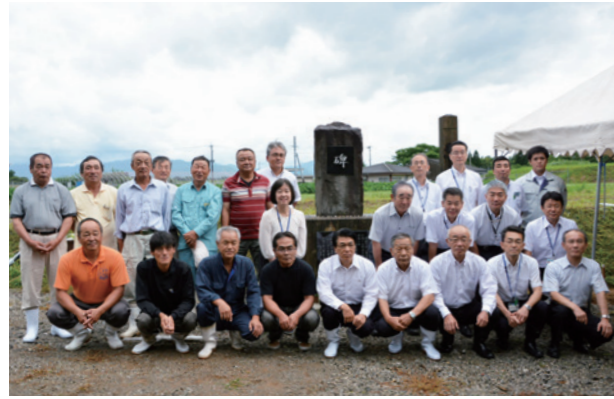


口蹄疫献花式を行いました

6月20日、口蹄疫により市内で殺処分された家畜4866頭もの牛が眠る長園原共同埋却地で献花式を行いました。平成22年に本県で口蹄疫が発生してから6年。献花式では、畜産農家を含む約30人が出席し、一人ずつ碑の前に慰霊の花を手向けました。出席者は犠牲になった家畜のことを思いながら、口蹄疫の記憶を風化させることなく一層の防疫対策強化を誓いました。今後も防疫対策に取り組みながら畜産振興に努めます。



九州各県の強豪が集いました

6月18日から26日にかけて、九州各県のチームが参加する日本リトルシニア中学校硬式野球日本選手権の九州予選大会兼宮崎市長杯が、SOKKENスタジアムほか県内の7球場で開催されました。大会には、被災地熊本からも多数の選手が参加し、合計35チームによる熱戦が繰り広げられ、見事、熊本北リトルシニアが優勝しました。

Miyazaki Topics

宮崎市旬の話題 “みやとピ”



山城の魅力に触れ合いました

6月18日から2日間、市内にある3つの山城(宮崎城、佐土原城、穆佐城)跡を紹介する「宮崎市の三大名城」がイオンモール宮崎で開催されました。会場では、スタンプラリーのほか宮崎城主であった上井寛兼に扮した職員による解説や甲冑を着ての記念撮影など、山城の歴史や構造を当時の文化と共に多くの人が楽しみながら学びました。

キャンプ地宮崎をPR

6月4日、読売巨人軍の本拠地である東京ドームで「キャンプ地みやざきスペシャルゲーム」を開催しました。会場では、宮崎観光パンフレットと特製うちわの配布や大型ビジョンを使用したPR動画を放映。北海道日本ハムファイターズとの交流戦では、多くの人がうちわを持って声援を送り、大いに盛り上がりました。



↓ 昭和39年8月号が電子書籍で読める!

今回の旅行先 昭和39年8月

オリンピック聖火
宮崎市のリレーコース

今回発掘するのは、昭和39年8月号の「オリンピック聖火 宮崎市のリレーコース」です。東京オリンピック聖火リレーのコースと走者が発表され、聖火は同年9月9日に宮崎に到着。平和台公園に設置された聖火台へ点火されたことが書かれています。



※QRコードの読み取りには、アプリ「QR・JANコード読み取りバーコードリーダー」を推奨しています。



平和台公園に聖火台が設置され、9月9日に点火されました。このとき広場には約4万人もの観客が集まったそうです。



(有)本部はにわ製作所の設立者で聖火台を製作した本部マサさん。聖火台は、焼き上げた物を組み合わせて作られました。



3つの作業場があり、150人ほどの社員がいたそうです。聖火台は、とても大きな物なのでたくさんの人が製作に携わりました。

東京オリンピックの聖火台ができるまで

(有)本部はにわ製作所の沼口厚子さんのお話や、写真を交えて振り返ります。

2020年の東京オリンピックで、また聖火台の製作に携わる機会があるとうれしいですね。

(有)本部はにわ製作所 沼口厚子さん (60歳)



聖火起点記念のプレートです。聖火はここから市内を走り、東京へリレーされました。

聖火リレーの起点が宮崎に決まりました。本部はにわ製作所の設立者である本部マサが聖火台の製作にあたりました。宮崎といえば土器やにはわが数多く出土し、また、神話のふるさとということで、縄文土器をモチーフに、台座には神々が高千穂の地に降臨された様子を描いています。大変大きな聖火台なので、窯に入らず、分割したものを組み合わせて作ったそうです。さまざまなアクシデントを乗り越えて、ようやく作り上げたと聞いています。

地名をたずねて 昭和36年7月 「むらすみ(村角)」

昭和36年4月から連載されていた「地名をたずねて」。市内のいろいろな地名の由来を当時の文章のままお届けします。



写真は高屋神社(当時)

村角は日豊本線宮崎神宮駅の北方で、「中略」すいぶん古い時代から開かれたらしく、土の中から彌生式という二千年もむかしの土器が出たり、鏡やヨロイ、カブト、刀などが掘り出されたりする。また古墳も多い。村に鎮座します高屋神社は、タカマガハラから降臨されたというヒコホホデミノミコトをおまつりしている神社であるが、この神社も大きな古墳のそばにある。「中略」さて村角という地名の由来であるが、ムラはムレ(群)のことで家が群がっているところのことである。スミという字は角、住、隅などいろいろあって意味も同じではなく角は三角、四角の角であるが、近くに住吉があり、岡富、国富などの富も住のこととで、群をなした住家ということで、角の字はあってもなくても同じ意味である。